

財務状況

・ 概要

平成30年度における本学の財務運営は、より一層の教育活動の活性化を図るとともに、施設・設備等の教育研究環境を充実させることを重視して行いました。

これにより、大成女子高等学校のICT環境整備や体育館の補修・トイレ改修や高校隣接地の取得、認定こども園大成学園幼稚園の屋根改修など施設の大規模修繕を行いました。

この結果、教育研究環境の充実が図られましたが、平成30年度の決算は、本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る教育活動収支差額はマイナス3,700万円、経常的な事業活動収支のバランスを表す経常収支差額はマイナス3,587万円となりました。

・ 資金収支計算書

資金収支計算書は1年間の活動に対応する全ての収入と支出の内容を明らかにして支払資金の顛末を表します。この計算書には当該会計年度に関係ない取引が入っていますので、調整勘定で資金の収支が修正されます。

平成30年度の資金収支規模は26億7,667万円でした。

主な収入項目である学生生徒等納付金収入は6億6,067万円で、前年度比5,018万円の減少でした。

また、補助金収入は、5億9,873万円となり、前年度比974万円の減少となりました。

一方、支出項目の人件費支出は8億2,359万円で、前年度比1,603万円の減少となりました。これは教職員人件費と退職金支出の減少によるものです。

教育研究経費支出は2億9,072万円、前年度比9,512万円の増加となりました。これは大成女子高等学校の体育館修繕工事等により修繕費支出が前年度比9,589万円増加したことなどが主な要因です。

一方、管理経費支出は9,958万円、前年度比257万円の減少となりました。

施設関係支出は3,588万円、前年度比522万円の増加となりました。

また、設備関係支出は3,853万円、前年度比1,612万円の増加となりました。これは大成女子高等学校のICT環境整備で校内無線LANを整備したことなどにより教育研究用機器備品支出が前年度比1,876万円増加したものです。

翌年度繰越資金は、前年度より1,439万円増の13億3,088万円になりました。

- ・ 事業活動収支計算書

学校法人会計基準では、収支均衡主義をうたっています。事業活動収支計算書では1年間の事業活動収入・事業活動支出の内容と収支の均衡状態を表します。

平成30年度の事業活動収入は13億5,304万円、事業活動支出は13億8,763万円、基本金組入後の当年度収支差額は8,115万円のマイナスとなっています。

- ・ 貸借対照表

貸借対照表は年度末の財政状態を表します。

また、資金収支計算書や事業活動収支計算書は単年度の計算書ですが、貸借対照表は法人化以来の累積の残高です。

平成30年度の資産総額は65億1,947万円、前年度末より6,177万円の減少となりました。

資産から負債を差し引いた、純資産は61億9,503万円、前年度末より3,459万円の減少となりました。